

佐世保高専 JABEE 関連企業・大学院アンケート
(専攻科修了生に対するアンケート)

1 調査の目的

本プログラムの「学習・教育到達目標」の各項目について、本校の技術者教育プログラムを修了した学生（専攻科修了生）が実際にその能力を身につけているか（「学習・教育到達目標」を達成しているか）を企業の直属の上司、大学院の指導教員に評価していただき、その結果を本プログラムの教育改善に資する。

2 調査対象

- ・ 企業 82 名 (61 社)

令和 3 年 3 月から令和 7 年 3 月専攻科修了生が就職した企業

- ・ 大学院 35 名 (16 大学院)

令和 3 年 3 月から令和 7 年 3 月専攻科修了生が進学した大学院

3 調査方法及び調査時期

(1) 調査方法 QR コード郵送、Google Forms による回答

(2) 調査期間 (企業) 令和 8 年 4 月 1 日 (水) ～令和 8 年 4 月 30 日 (木)

(大学院) 令和 8 年 4 月 1 日 (水) ～令和 8 年 4 月 30 日 (木)

4 回答数

企業 : 27 件

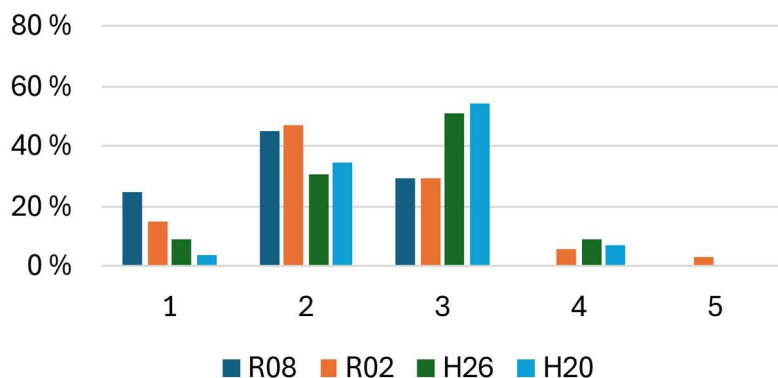
大学院 : 18 件

質問フォーム

佐世保高専専攻科修了生（令和 3 年度以降入社）の平均的な能力の印象についてお尋ねいたします。結果は 5 段階に分けておりますので、どれに該当するかを選択して下さい。

目安として点数に直すと次のようになります。(非常に高い：80 点以上，高い：70 点台，普通：60 点台，やや不足：40-59 点，不足：39 点以下)

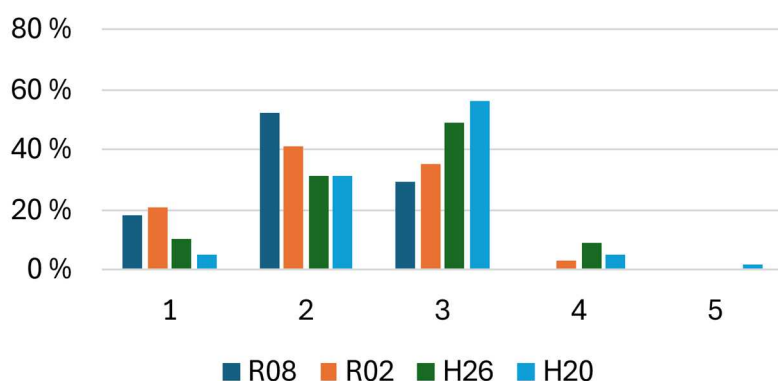
A-1-1. 数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率・統計など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。



数学の基礎能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、実務・研究に必要な基礎能力は概ね備わっていると評価される。一方で、「非常に高い」の割合は限定的であり、専門的応用力の高度化には課題が残る。このことから、基礎力は十分であるが、高度な問題解決への適用能力には向上の余地がある。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

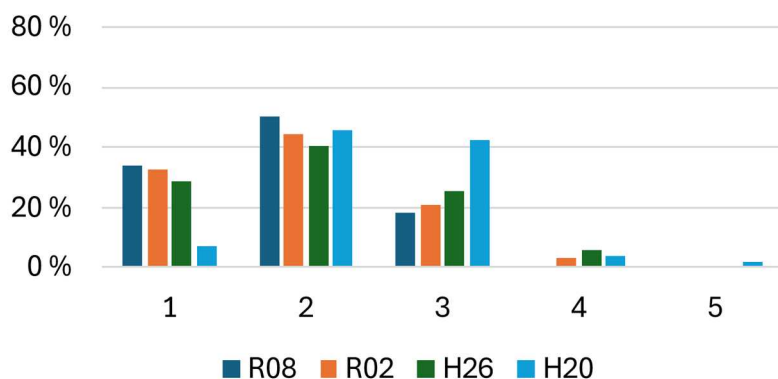
A-1-2. 自然科学（物理，化学など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。



自然科学の基礎知識については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、実務に必要な理解は概ね確保されていると評価される。「やや不足」は少数にとどまり、大きな問題は見られない。このことから、多くの修了生が基礎科学の理解を適切に活用できていると考えられる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

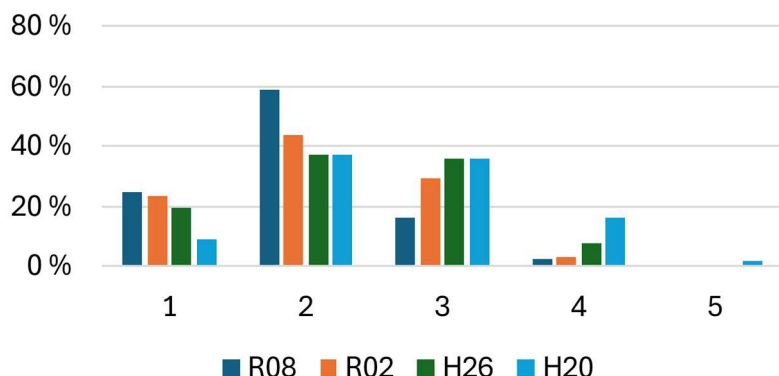
A-2. 情報技術の基礎知識を身につけて，情報収集，実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できる。



情報技術の活用能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として良好な水準にあると。また、分布を見ると「非常に高い」および「高い」の割合が増加しており、上位評価へのシフトが認められる。このことから、基礎的能力に加え、より高度な活用能力の向上が進んでいると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-3. 基礎工学の知識を身につけて、複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できる。

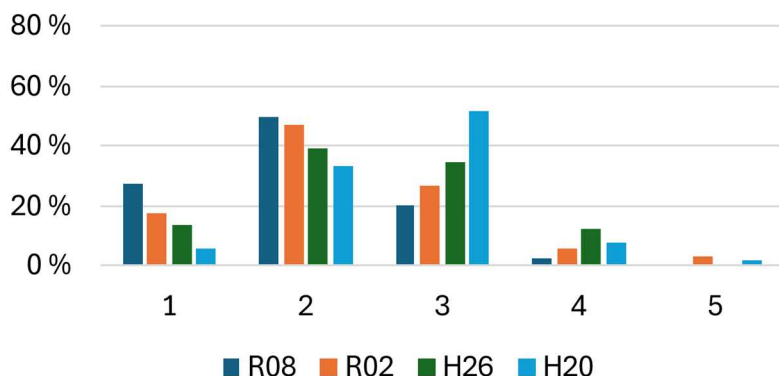


基礎工学の知識については、「普通」以上の評価が大半を占めており、安定した基盤能力が形成されていると評価される。「やや不足」は少なく、基礎能力としての完成度は高い。このことから、本項目は外部評価においても適切に達成されている分野である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-4. 【令和 5～6 年度修了生】それぞれの専門分野における”もの創り専門工学”の知識を身につけて、工学的諸問題の解決に応用できる。

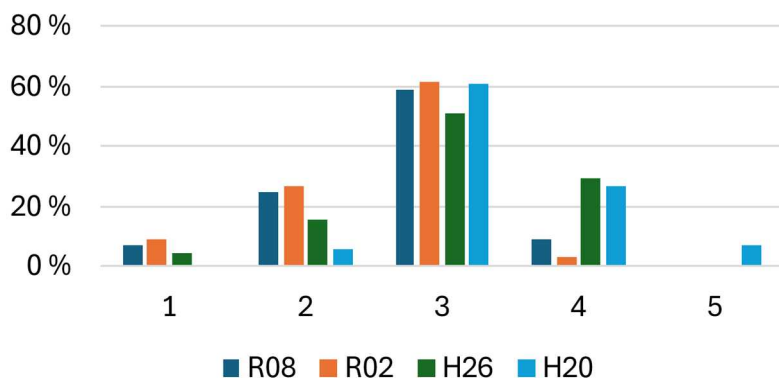
【令和 2～4 年度修了生】それぞれの専門分野におけるもの創りのための 4 つの専門科目群(材料・要素, 設計・製造, 評価・解析, 複合系)の知識を身につけて、もの創りに応用できる。



専門工学の能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として一定の到達水準にある。また、分布を見ると「非常に高い」および「高い」の割合が増加しており、上位評価へのシフトが認められる。専門知識を実践的に活用する能力の向上が進んでいる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

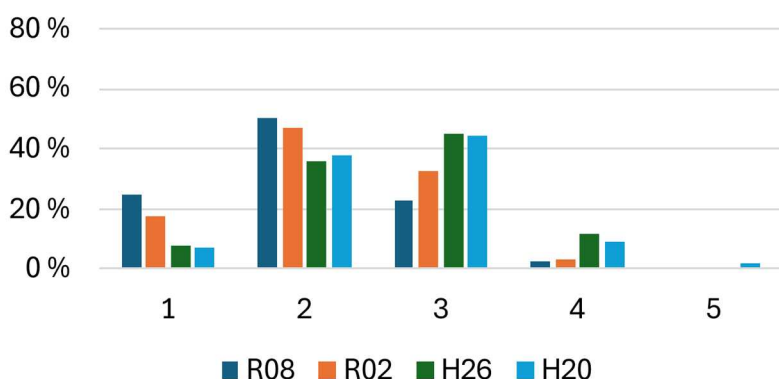
B-1. 他国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて、グローバルな視点でものごとを考えることができる。



グローバルな視点については、「普通」の割合が中心であり、「非常に高い」および「高い」の割合は限定的である。「やや不足」は多くないものの、上位層が十分に形成されていない点が特徴的である。このことから、能力は一定の水準にとどまっており、さらなる向上が必要な分野であると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

B-2. 技術が自然や社会に与える影響・効果を理解して、技術者としての責任を自覚できる。



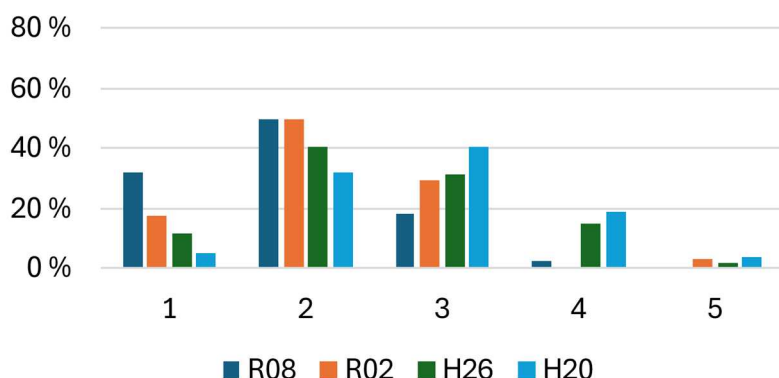
技術者倫理については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として良好に評価されている。

「やや不足」は少数であり、大きな問題は見られない。

このことから、技術者としての基本的な責任意識は外部から見ても適切に育成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

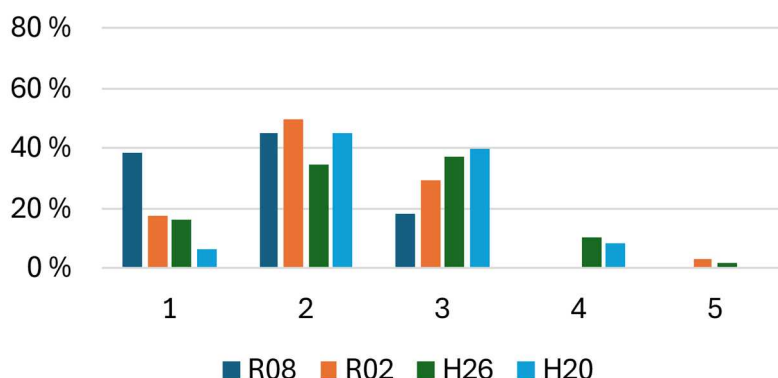
C-1. 技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できる。



日本語による説明能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、基本的能力は確保されている。また、分布を見ると「非常に高い」の割合が増加しており、上位評価へのシフトが認められる。このことから、単なる説明能力にとどまらず、より論理的で高水準な説明能力が育成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

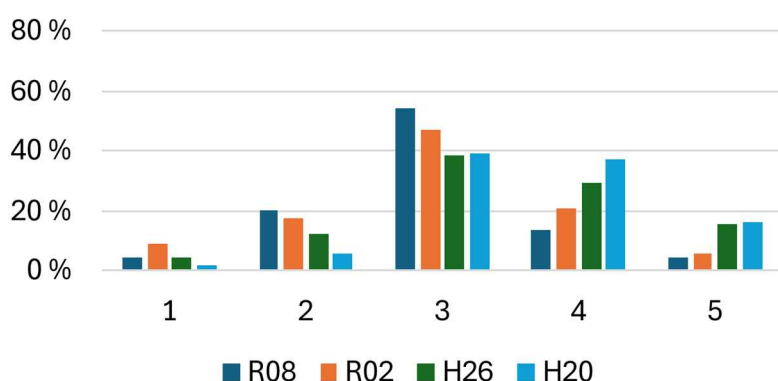
C-2. 相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができる。



日本語による応答能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として良好な水準にある。また、「非常に高い」の割合が増加しており、分布が上位評価へシフトしている。このことから、質問への理解力や即時的な対応力が向上していると考えられる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

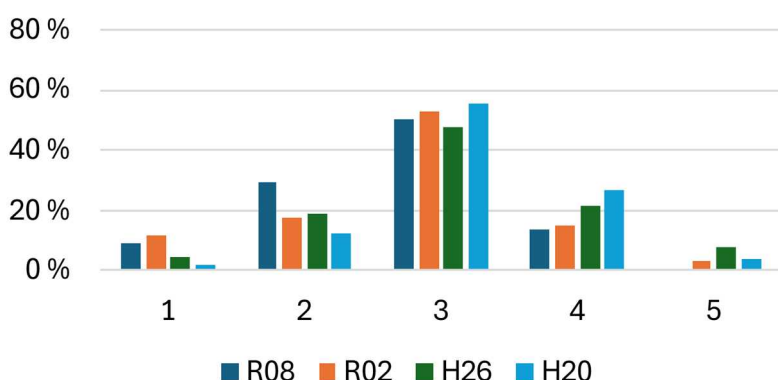
C-3. 英語による基礎的なコミュニケーションができる。



英語によるコミュニケーション能力については、「普通」および「やや不足」の割合が中心であり、全体としては依然として高い水準には達していない。一方で、「やや不足」の割合が減少し、「普通」および「高い」の割合が増加しており、分布の改善が見られる。このことから、基礎的な運用能力の底上げは進んでいる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

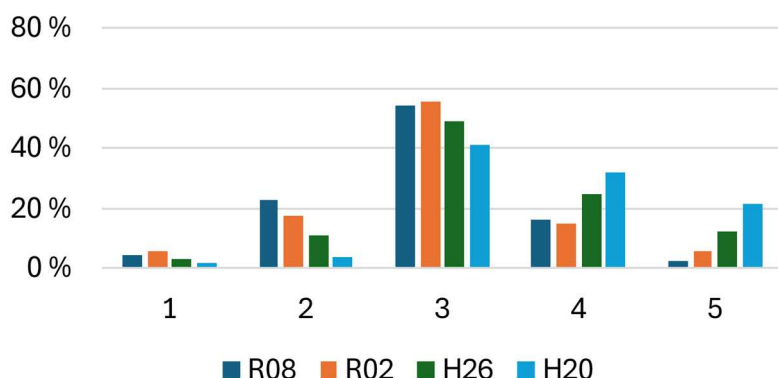
C-4-1. 基礎的な技術英語の文章を読むことができる。



技術英語の読解能力については、「普通」の割合が中心であり、全体としては中間的な水準にあると考えられる。一方で、「高い」の割合がやや増加しており、上位評価へのシフトの兆しが見られる。このことから、読解能力については一定の向上傾向が認められる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

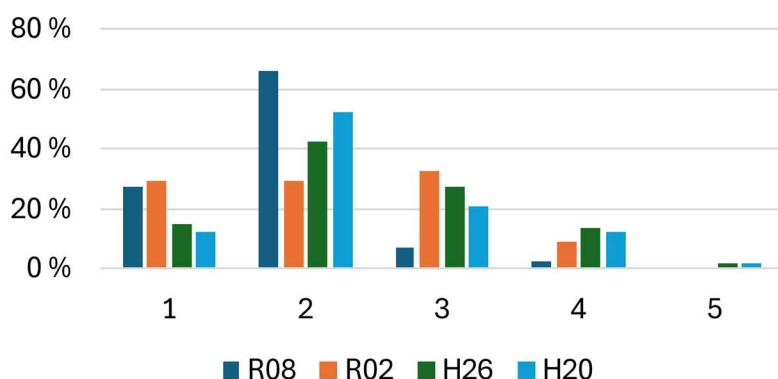
C-4-2. 基礎的な技術英語の文章を書くことができる。



技術英語の記述能力については、「やや不足」および「普通」の割合が中心であり、全体として低い水準にとどまっている。本項目は能力向上の難易度が高い分野ではあるものの、引き続き重点的な改善が必要な課題分野であると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

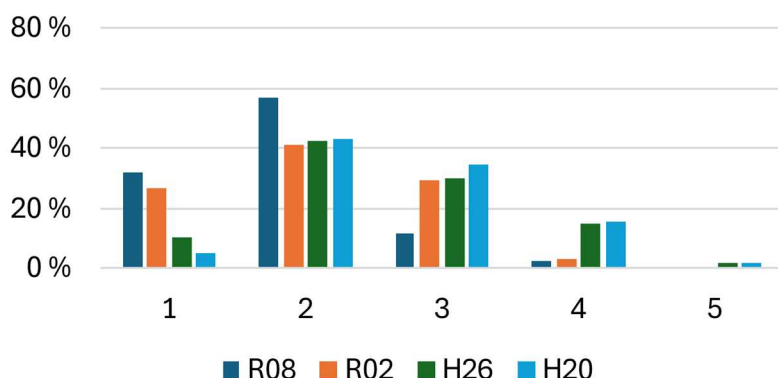
D-1-1. 自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施することができる。



実験計画能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として良好な水準にある。また、R02と比較して「高い」の割合が増加しており、分布が上位評価へシフトしていることが認められる。このことから、自ら実験計画を立案する実践的能力が向上していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

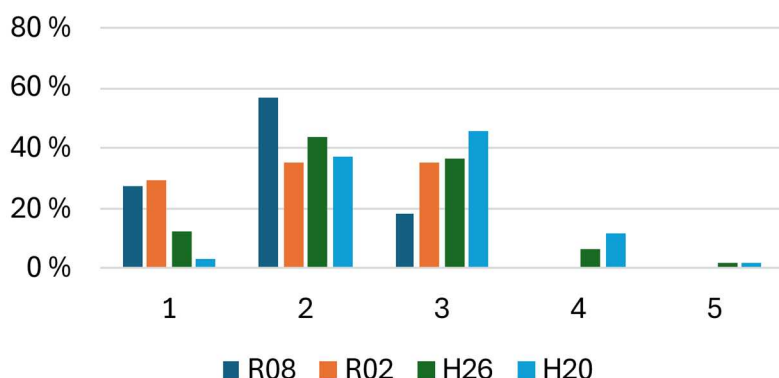
D-1-2. 得られた結果を正しく評価・解析して考察し、論理的に説明できる。



実験解析能力については、「高い」および「非常に高い」の割合が大半を占めており、全体として極めて高い水準にある。分布としても上位評価が安定しており、「やや不足」「不足」はほとんど見られない。また、一部では「非常に高い」の割合も増加しており、能力のさらなる向上がうかがえる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

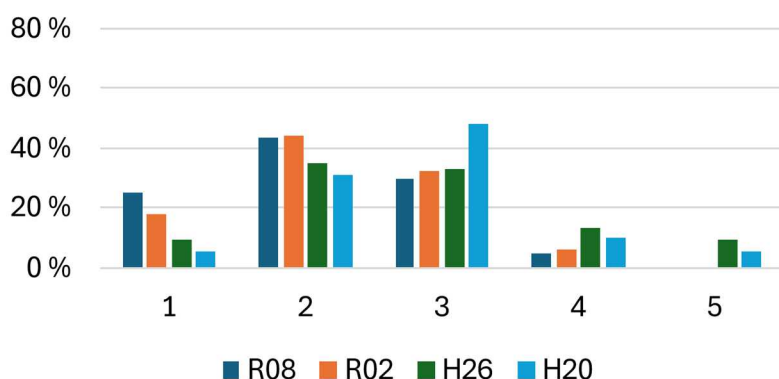
D-2-1. いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使することができる。



複数分野の知識活用能力については、「非常に高い」および「高い」の割合が大半を占めており、分布の中心は上位評価に移行している。「普通」は一部にとどまり、「やや不足」「不足」はほとんど見られない。このことから、多くの修了生が複数分野の知識を実践的に統合し活用できる水準に達していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

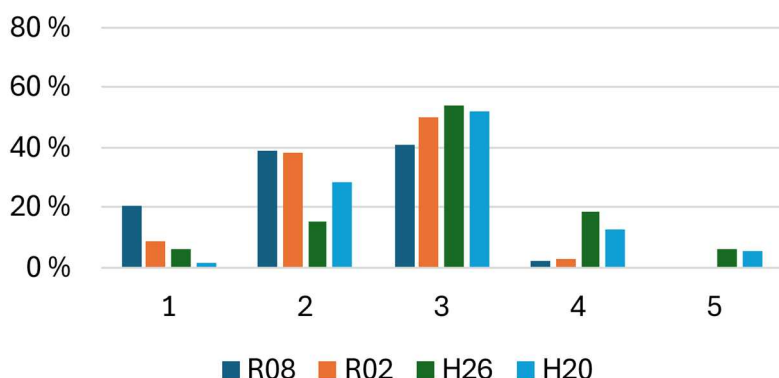
D-2-2. 創造性を発揮して、調査・解析をおこない、解決策を組み立てて実行し、課題を解決できる。



複数分野の知識活用能力については、「非常に高い」および「高い」の割合が大半を占めており、分布の中心は上位評価に移行している。「やや不足」「不足」はほとんど見られない。このことから、多くの修了生が複数分野の知識を実践的に統合し活用できる水準に達していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

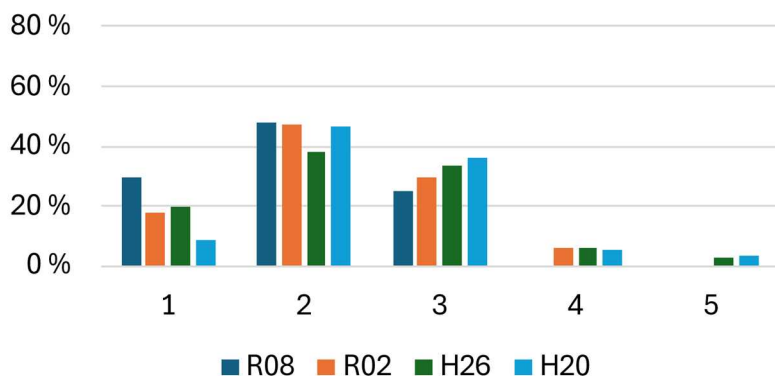
D-3. 社会の要求する課題を解決するにあたって、その内容を分析して、計画や方策を複眼的にデザインできる。



デザイン能力については、「高い」以上の割合が過半を占めており、良好な水準にある。また、「不足」が見られず、能力の底上げが確認できる。一方で、「普通」も一定割合存在していることから、完全な上位化には至っていない。このことから、改善と一定の向上は認められるが、さらなる高度化が今後の課題である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

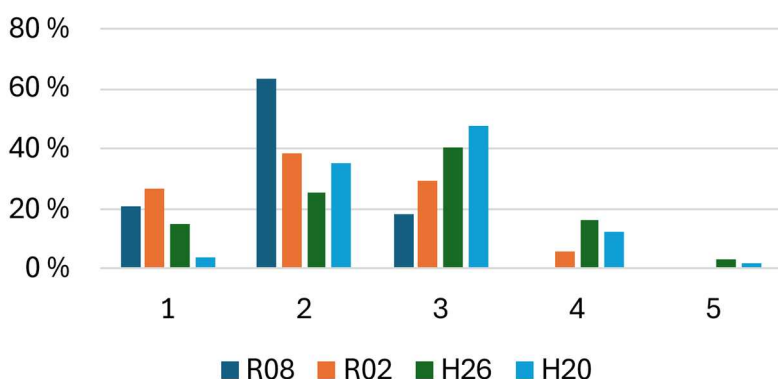
D-4. 実験、実習、研究、インターンシップなどを通して実践的能力を身につけ、技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができる。



務対応能力については、「高い」および「普通」が中心であり、高い水準で安定している。また、「やや不足」「不足」が全く見られず、能力のばらつきが極めて小さい。このことから、実務に必要な能力は全体として確実に定着していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

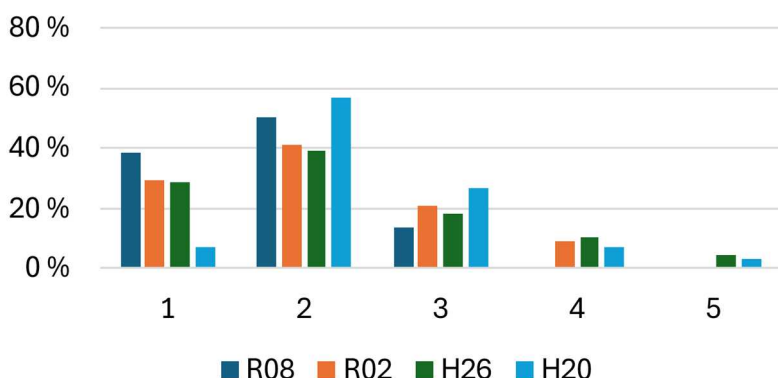
E-1. 社会の要請に迅速に対応し、科学技術の進展を先導するため、自主的・継続的に学習できる。



継続学習能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として良好な水準にあると考えられる。また、「やや不足」「不足」の低評価が全く見られず、「高い」の割合が増加し、「普通」から上位評価へのシフトも認められる。このことから、自主的・継続的な学習能力は定着していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

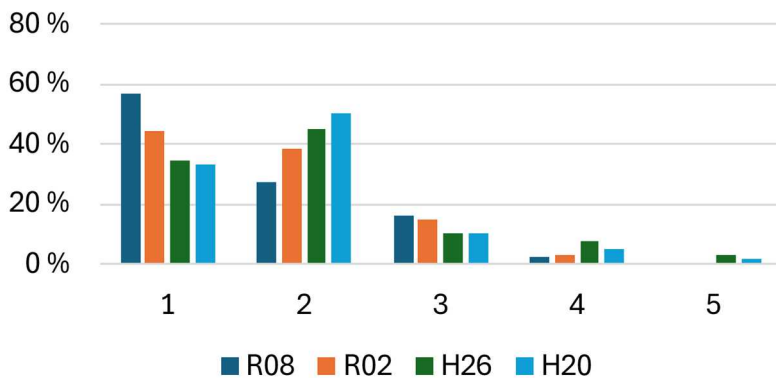
E-2. 要求された課題に対して、自立して、あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め、期限内に終わらせることができる。



協働能力については、「高い」および「普通」が中心であり、安定した水準にある。また、「やや不足」「不足」が全く見られず、能力のばらつきがほとんど存在しない。このことから、協働能力は全体として確実に定着していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

E-3. 健全な心身を持ち、学内外（あるいは社内外）の人々と協調して行動できる



協働能力については、「高い」および「普通」が中心であり、安定した水準にある。また、「やや不足」「不足」が全く見られず、能力のばらつきがほとんど存在しない。このことから、協働能力は全体として確実に定着していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

本アンケート結果は主観評価を含むため全体として高めの傾向が見られる可能性はあるが、各項目における評価分布の差異および変化が明確であり、教育効果の分析に有効な結果であると考えられる。

全体として、「高い」以上の割合が増加しており、分布が上位評価側へシフトする傾向が複数の項目で確認される。特に、情報技術（A-2）、専門工学（A-4）、日本語コミュニケーション（C-1, C-2）、実験計画（D-1-1）などにおいては、「普通」から「高い」への移行が見られ、能力の質的向上が認められる。

実践的問題解決能力（D群）および自己管理・協働能力（E群）は高い水準で安定しており、本プログラムの強みである。特に、実験解析（D-1-2）および実務対応（D-4）では低評価が見られず、能力の定着が確認される。また、統合活用（D-2-1）は上位評価が中心となっており、能力の定着が示されるとともに、創造的問題解決（D-2-2）では「非常に高い」の増加が見られ、能力の高度化が進んでいる。さらに、継続学習（E-1）および協働（E-2）は低評価が存在せず能力の定着が確認され、協調性（E-3）は「非常に高い」が過半を占め、極めて高い水準にある。

一方で、英語能力については依然として課題が残る。英語コミュニケーション（C-3）は改善傾向が見られるものの上位評価は限定的であり、英語読解（C-4-1）も改善途上にある。特に英語記述（C-4-2）は低評価が比較的多く、最も重要な課題である。また、グローバル視点（B-1）は低評価は少ないものの上位評価が不足しており、中間水準にとどまっている。

以上より、本プログラムは基礎学力および実践的能力、協働能力において顕著な成果が認められ、全体として能力の底上げ段階から質的向上段階へ移行していると評価される。一方、英語能力およびグローバル視点については引き続き重点的な改善が必要である。